

2021年 文化祭「音楽選択授業」

ポピュラー音楽をサクソフォンで聴こう。

授業担当 音楽科教諭 佃 馨

授業内演奏担当

Piano 湯本 卓郎 (ゆもと たくろう)

Saxophone 佐藤 和征 (さとう かずゆき)

Tuba 佃 馨 (つくだ かおる)

2021年荏原祭において、音楽科は授業と演奏で皆さんを音楽へと導きたいと思えます。

音楽鑑賞と言うと、演奏者のDVDやCDと言ったソフトを利用した授業が主ですが、今回は実際に演奏を交えた授業を行います。

まず、演奏協力をしていただく先生方をご紹介します。

サクソフォンの佐藤先生は、東京藝術大学を卒業された後、サクソフォンカルテットで演奏活動をされた後に東京都の公立高校の教諭として一昨年まで活躍されていたらしいです。現在は、本校の音楽科非常勤講師として勤務していただいております。

ピアノの湯本卓郎さんは、洗足学園音楽大学でトランペットを専攻し卒業後は桐朋学園研究科にて指揮を勉強されました。現在は本校の用務担当として皆さんの身の回りのお世話をしています。因みに、私佃とは桐朋学園の研究生時代に知り合い、同級生でありました。

さて、今回取り上げる楽器、サクソフォンですが、管楽器の中では新しい楽器と言えます。また、私が吹いているチューバも新しい楽器と言えるかも知れません。

音階ができる管楽器として一番古いのは、トロンボーンと言われています。スライドを伸ばしたり縮めたりすることによって音階を奏でることができたわけですが、音階の倍音を発見したのは数学者であるピタゴラスであると言われています。比率によって音の高低が示された理論上での音階の原理は紀元前からあったわけです。それをいち早く体現したのは弦楽器でした。

弦楽器で音階を奏でることはできても、管の長さが決められている管楽器で音階を奏でることは理論的に大変難しいものでした。しかし、産業革命によってバルブが考案されたことにより、管の途中に穴を開けると振動率・波形が変化し音の高低が出来ることが分かり、管楽器も不安定ではありますが音階が演奏できるようになりました。身近な楽器で言うと、リコーダーがその原理で出来ています。

皆さんはピアノと言う楽器はよくご存知のことと思いますが、ではピアノの本当の名前をご存知ですか。実は大きな音も出るし、小さな音も出るという音量のコントロールが出来る楽器と言うことで、ピアノフォルテが正式名称となります。

因みに、サクソフォンとチューバは管楽器です。ピアノは一般的に鍵盤楽器と言われているのですが、本来は打弦楽器と言うのが正しいでしょう。



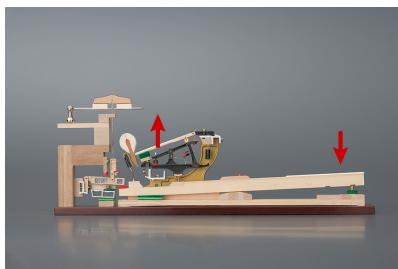
サクソフォンですが、湯本さんが勉強したトランペットや私が勉強したチューバと違い、発明した人がはっきりしている楽器です。発明者の名前はアドルフ・サククスと言う人物で、その人物の名前から「サクソフォン」と名付けられました。音楽のテンポを知るために「メトロノーム」と言う道具がありますが、メトロノームも発明した人物の名前です。

アドルフ・サククスは19世紀初頭にベルギーに生まれた楽器製作家で、色々な吹奏楽器が吹けた人だったと伝えられています。サククス氏は、木管



楽器の良さと金管楽器の良さを合体した楽器が作れないかと考え、1840年代にサクソフォンを考案し、1846年にパリで特許を得ています。この楽器は発明された当初から金管楽器と同様の金属である真鍮で出来ています。しかし、サクソフォンの発音は葦を薄く削ったリードと言われる物を振動させるクラリネットやオーボエなどと同じであるために、木管楽器に分類されています。

ベルギーで生まれて、と言うより発明されたサクソフォンですが、先ほど述べたようにフランス・パリで特許を取得しているためか、フランスの作曲家が楽曲に多く使用しています。代表的な曲と言えば、ラヴェルの「ボレロ」やビゼーの「アルルの女」、ハチャトリヤンの「ガイーン」などがあげられます。青QRコードは小澤征爾氏指揮のパリ管弦楽団「アルルの女第2組曲より間奏曲」です。どんなチームにもそれぞれの役目と言うのがあると思いますが、サクソフォンと言うパートは、吹奏楽と言う団体、チームにとっては金管と木管を繋ぐ為の楽器・パートであると言われています。



先ほど、ピアノは打弦楽器と述べましたが、その原理は左の写真を見ていただくと理解できると思います・

下矢印の先には鍵盤があります。鍵盤を押すと上矢印が付いているハンマーが弦を叩き音が鳴ります。

音を伸ばすためには、ダンパーと言って弦を開放する装置がペダルと連携されており、ペダルを踏むことによってダンパーが上に上がり、弦が開放され音が伸びるわけです。

チューバは、古くはチューブ、つまり管と言う意味があり、管楽器全体を総称する名称でありました。チューバと呼ばれる楽器は数種類あります。テナーチューバ、一般的にはユーフォニウムと呼ばれる場合もあります。ヨーロッパ圏で使用されているウィンナチューバやハ長調のチューバ、変ロ長調のチューバ、ハ長調のチューバと種類は多岐に渡ります。また、作曲家の名前が付いたワーグナーチューバなどもあります。

チューバは、金管楽器でも最低音を受け持ち、そのパートや声部の事をバスパート、ベースと呼んでいます。今回はハ長調の楽器を使用いたします。

では、サクソフォンソロ、ピアノ、ベースで「全てをあなたに」をお聞きください。